

* 7 織物のピリングテストの試作とその実験

大阪市立大学 田中 道一

広田 輝次

○弓 削 治

最近、織物特に合成繊維との混紡・交織製品のピリング生成に多くの関心が払われるようになった。ピリングを調べる方法としては、織物表面を種々なる材料で摩擦し、その際に発生するピリングの状態を調べるものがあるが、この方法は測定にかなりの時間を要する上に、一度に布の片面を試験できるだけで、又摩擦のみによって生成するピリングと実際着用時にできるピリングとは、その条件を異にすると考えられる。そこで、この欠点を除き、なるべく着用時の状態に近い条件でピリングを発生させるため、織物が自由に動ける、たて型円筒中に布を入れ、ゴム張りの翼で布を攪拌させる装置を試作した。これを用いて試験を行ったところ着用時の状態と同様ピリングを発生し、又ピリングの出来易い布は極めて短時間に布の両面にピリングが出来た。このようにして、出来たピリングの評価は試料面積内のピルの数を測定して求めた。時間的に、発生するピルの数を測定すると、これらピリングの発生には時間的に極大点のあることが確められた。又布を構成する繊維材料により当然ピリングの難易があるほか、同じ材料よりなるものでは、太糸の場合、或いは撚りの甘い糸を用いたものは比較的ピリングが生成し易いことは共通している。